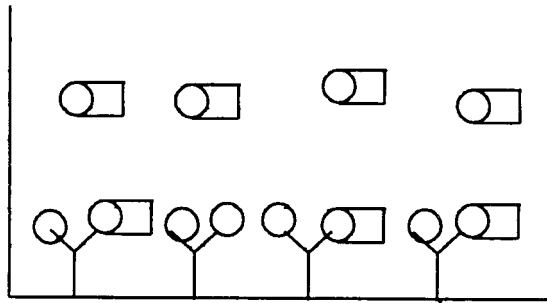


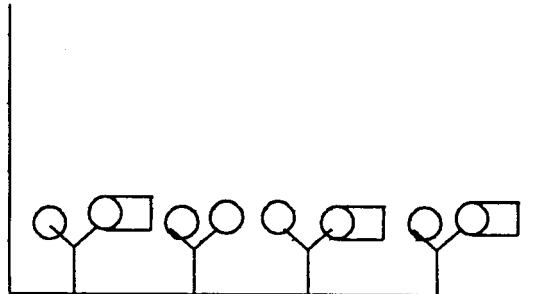
試料液や標準液に酵素標識抗原液を加えてインキュベートする



○ 抗原
(対象物質)

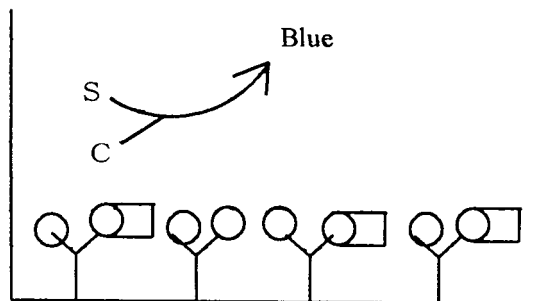
Y 抗体

ウェル内の液を捨てた後、水を満たし、洗浄を繰り返す



酵素標識抗原

基質および発色剤を加えインキュベートして発色させる
対象物質濃度が高いほど発色が弱い



S = 基質

C = 発色剤

図 1 競合 ELISA 法

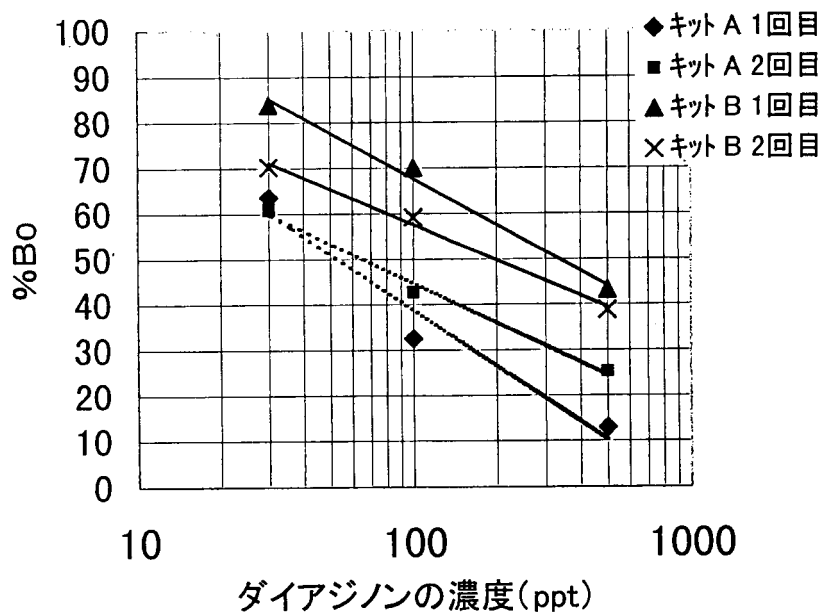


図 2 ダイアジノンの検量線

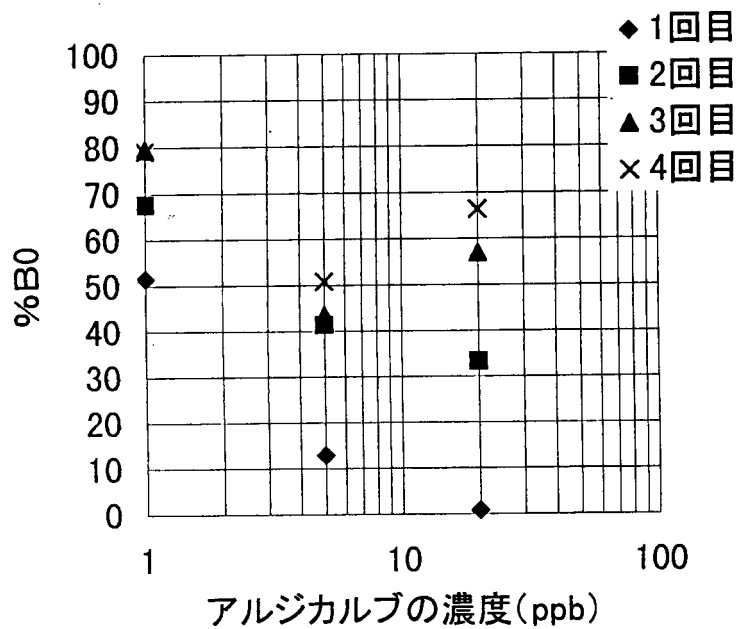
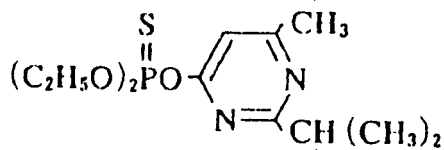
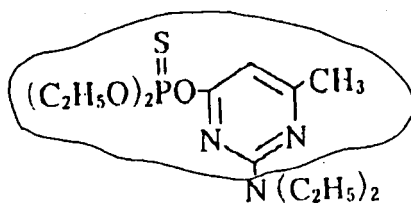


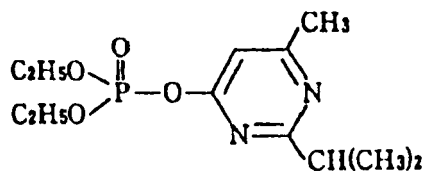
図 3 アルジカルブの検量線



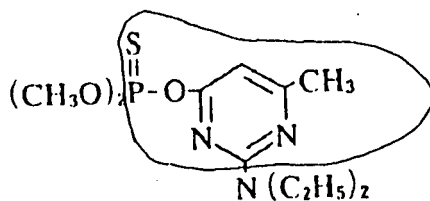
Di azinon



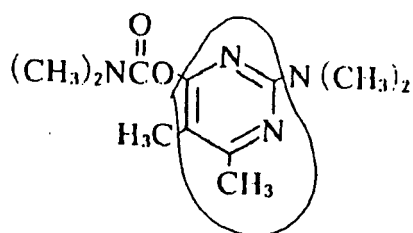
Piri mi phos- ethyl



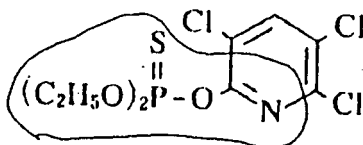
Di azoxon



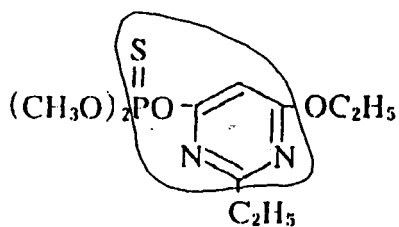
Piri mi phos- methyl



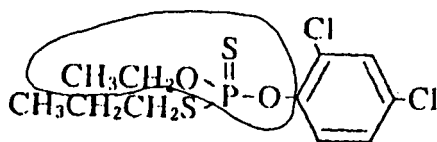
Piri mi carb



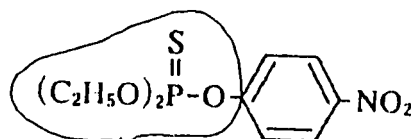
Chlor pyri fos



Etri m fos

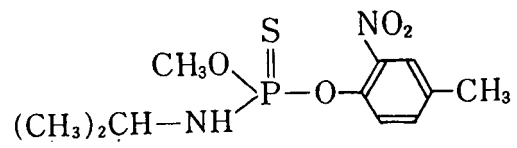


Pro thi ofos

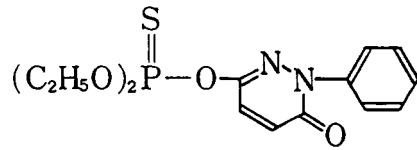


Para thion

図 4 ダイアジノンと交差反応性の疑われる農薬



Amiprofos-methyl



Pyridaphenthion

図5 アミプロホスメチルとピリダフェンチオンの化学構造式

細切試料 10g

ダイアジノン標準品 1 μ g 添加
(100 μ g/ml アセトン溶液を 10 μ l 添加)
2時間放置
メタノール:PBS (1:9) 100 ml

振とう 10分・ろ過

2ml 分取 (250ml 容有栓メスシリンダー)

メタノール:PBS (1:9) 200ml 定容

振とう・ろ過

試験液 (5ml 褐色試験管)

図 6 添加回収試験の処理方法